

東由利町報

No. 261 昭和52年8月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



No 261

8 / 1

(東由利町農業総合指導センター)

◎出穂始めから傾穂期までの水管管理

この時期は比較的水分を要する反面、根の健全化に努めなければなりません。間断灌水や高温時には二〇~二五度程度の水のかけ流しなども行います。

しかし、乾燥や激しい温度変化、風害など恐れのある場合は、五~六cmの水深とし乾燥害や株ゆれを防ぎます。

◎カメムシ防除

カメムシによる被害が最近みられます。

カメムシの被害は班点米や黒色米の原因になり、下位等級米のもとになります。

出穂十日前に畦畔の雑草の刈り取りと、乳熟期以降二回くらいスミチオン・バイジット粉剤等を散布し、防除を行います。

田代・黒瀬地区は特に注意が必要です。

◎穂いもち病の徹底防除

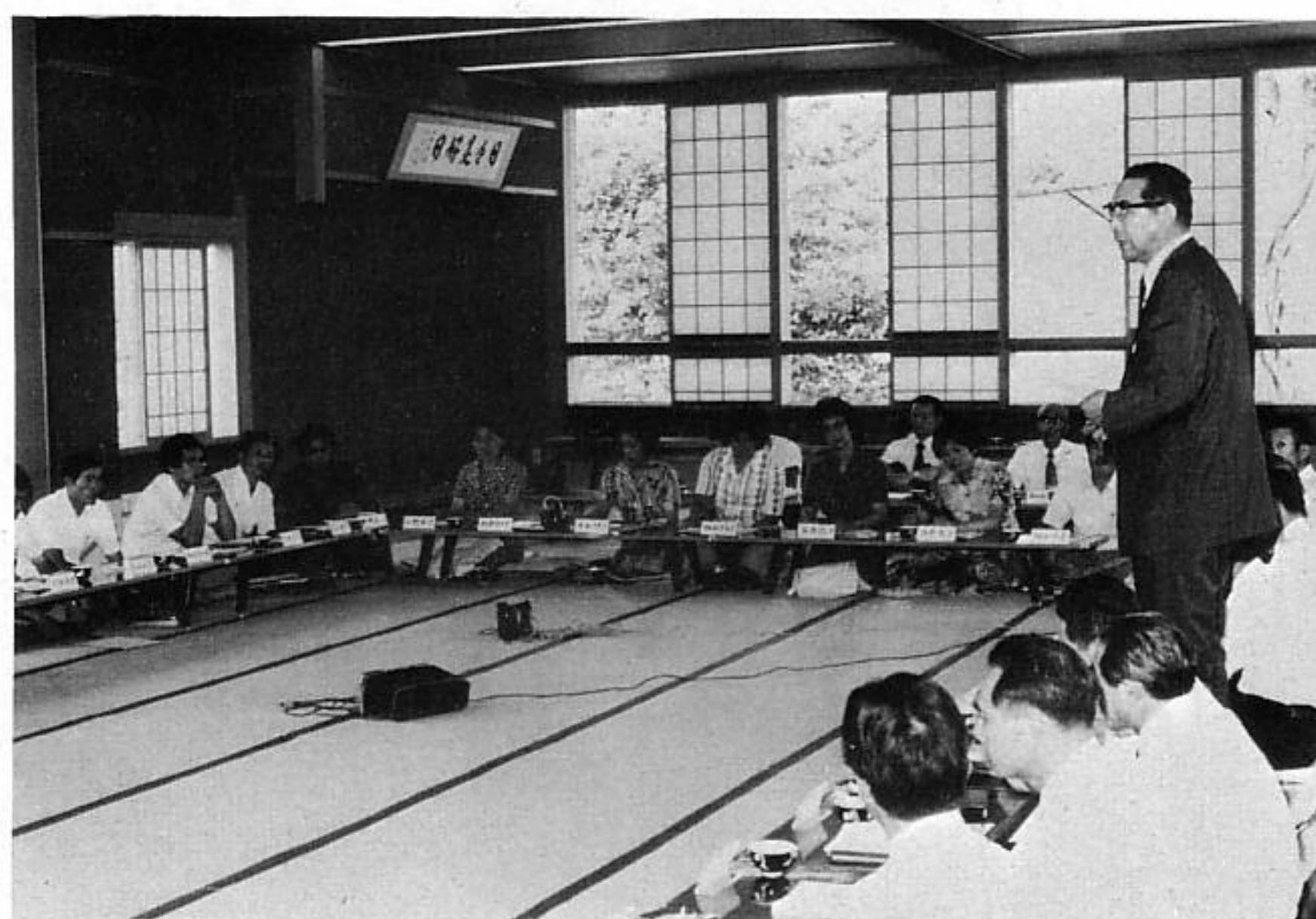
葉いもち病が蔓延し、この状況から穂いもち病の異常発生も予想されますので、出穂前、穂割期、傾穂期防除を徹底的に行うことが最も大切です。

営農メモ

父兄ら県教委と意見交換

県主催教育懇談会で

教師・父兄・地域の連携を強調



畠山県教育長の県の教育行政の説明に聞きいる参加者たち

——“自然に親しめ”と言わ
れながら、我々大人は“川へ行
つてはいけない”“川で遊んで
はいけない”と規制している。
だから、今の子どもたちはツリ

のおもしろさ、どうをすぐ
うおもしろさを知らない。また
秋のナベッコ遠足にも家からマ
キを持って行くような状態であ
る。

県教育委員会主催による第二回目の「教育懇談会」が、
先ごろ本町を会場に開かれました。

学校教育を始め教育問題については、全町民が大いに関

心の寄せる問題であるだけに注目されていましたので、
その概要を紹介します。

しかし、“自然に親しめ”と
言うならば、自由にツリを楽し
め、山でマキを調達できるよう
な教育があつてもいいのではないか
だろうか——
これは、去る七月二十二日に朋
樂荘で開かれた「教育懇談会」
での、ある参加者の発言の一
節です。

これは、“自然に親しめ”と
いう教育の理想と、危険から子
どもたちを守るという現実との
矛盾です。

目標は“心の豊かさの追求”

畠山県教育長あいさつで

この会に、県教委からは畠山
教育長以下各課長、室長らが出
席、町からは二十代から六十年
までのPTAや地域の代表二十
三名が出席し、佐藤教育委員長
佐々木教育長も同席しました。

開会に先立つてあいさつに立
つた畠山県教育長は、県の教育
行政全般にわたって説明しまし
た。その概要是次のとおり。

◇秋田県の教育の基本方向

- ・郷土に誇りと愛情を持つ教育
- ・お互いに助け合い地域社会
の振興を図る教育
- ・自分の力で地域社会を築き
あげる自覚を持つ教育
- ・以上の三点をねらいとし、そ
のため家庭や学校、地域や職
場をフルに活用していきたい。
- ◇郷土愛を育てる教育
- ・高度経済成長は、物質的欲求

はある程度満たしたが、一人一
人の内面に自己本位的な性格、
連帶性の欠如、郷土認識の希薄
化などのひずみをもたらした。
郷土愛を高揚するため、自然
保護活動、郷土史料館の建設
郷土史の編さんなどをすすめる
一方、青年を対象としたふるさ
と運動や、ふるさとづくり親子
共同活動などもモデル町村を設
けて実践をすすめている。

◇幼稚園教育の振興

三歳から四歳にかけての教育
はもつとも大切であると言わ
れているが、県内では百二十の幼
稚園に全県の幼児の四十六・五
%が入園しているにすぎない。
幼稚園の建設がすすまない大
きな理由は、財政的な面と、過
疎のため園児の絶対数が足りな
いという両面がある。

現在、保育園と幼稚園を一体

ギャンブを如実にあらわし、我
々大人に対し反響的に問い合わせ
ている問題であると言えよう。
学校教育、家庭教育、社会教
育の別を問わず、今日ほど教育
の方方が論議されている時代
はありません。情報の氾濫、核
家族化の進行、めまぐるしい經
済変動、高学歴偏重社会などは
総じて“価値感の多様化”など
と言われることばで総括され、
教育の方にも数々の波紋を

投げかけています。
同懇談会も、そうした社会変
動を背景に、県教育委員会が県
民からの意見や要望を県の教育
行政に大きく反映させていくこ
と、県の教育行政の方向を広
く県民に理解していただくこと
をねらいに、今年度から始めら
れた事業で、本町での開催は六
月二十一・二十二日に大森町、
大曲市で開催されたのにつづい
て二回目。

にしていく構想も進んでおり、
今後は地域事情などを勘案して
この幼保一体を進めたいと考え
ている。

◇学校教育の目標

学校教育の目標は、“一人一
人の児童生徒に焦点をあて、適
正能力を伸ばす教育”、“知育
・德育・体育の均衡がとれた教
育”であり、そのための教職員
の研修もすすめている。

◇教職員の配置

また、ご指摘の多い“道徳教
育”については、国の施策と相
まってモデル指定校を設けて実
践しており、その結果を見なが
ら全県に波及させたい。

教職員の配置については、過
疎という県全体の事情も考慮し
過疎地、へき地に手厚く配置す
るよう配意している。

また、養護教諭と事務職員に



この子らの健やかな成長はみんなの願い(東中卒業式で)

などの非行が中学生、高校生の間に目立つており、その年齢が低下しているのは憂慮に耐えない。地域、学校、家庭の三者が一体になることによって、これら非行を根絶すべく指導を強めている。

◎ 学校統合

財政面からの統合は考えていな。教育効率、父兄の負担、通学距離などを考え、住民の理解の上で指導している。

◎ 高等学校教育

高校への進学率は毎年上昇しており、五十二年度は全県平均八十八・二%である。進学率は今後も伸びると思われるが、それに伴って高校の配置、学区制や教科の問題があり高等學校教育協議会などでも審議をすすめている。

現在、県内には盲学校一校、ろう学校一校、養護学校二校がある。これら特殊教育は五十四年度

ついで、どちらも来年度末までは全県の七十五%の学校に配置する予定である。それまでに配置できなかつた小規模校、へき地校についても五十五年度までに配置できるよう努力していく。

◎ 児童生徒の健全育成

喫煙や飲酒、夜遊び、薬物乱用(シンナーなど)、不良交遊

から義務教育化されるので、それ間に合うよう施設の整備をすすめている。なお、在宅訪問指導教育は今後ともすすめいく。

◎ 地域スポーツ活動の振興

豊かさの追求」を強調しました。

若い教師の配置を月三む戸も

* —— 具体例をもつての意見集中

このあと、長谷川秘書室長の司会によつて話し合いが行われました。

話し合いでは、参加者の間から前もつて提出されていた話題を中心にすすめられ、家庭教育のあり方、児童生徒と地域のあり方、青少年の非行、教師と父兄のあり方、教師と地域の結びつき、教師の年齢の高齢化や女性教師の増加、通勤教師の増加と

それらに伴う幣害、学校給食の実施、高校生の交通事故の増加などに具体的な例をもつての意見が集中しました。

特に、児童生徒の非行防止については、「親がもつと厳しくあるべきではないか」教師はもつと家庭や地域に入つて、積極的な情報交換をするべきではないかなど、父兄や地域の人、教師の立場に厳しく反省を求める声が目立ちました。

また、高校生の交通事故防止についても意見が集中、仕事以外の遊びなどには自動車やバイクは絶対に使用させない、そのためには親同志あるいは地域父兄が横の連携を密にしなければならない。という結論を得ました。

信頼と期待を担つて

第五分団連続総合優勝

町消防大会

成績は次のとおりで、第五分団が昨年に引きつづき総合第一位となりました。

総合の部

第一位 第三分団
(梅津栄一分団長)

第二位 第三分団
(村上種次分団長)

第三位 第四分団
(工藤俊雄分団長)

〔通常点検及び小隊訓練の部〕

第一位 第三分団

第二位 第三分団

第三位 第三分団

第四位 第三分団

第五位 第三分団

第六位 第三分団

第七位 第三分団

第八位 第三分団

第九位 第三分団

第十位 第三分団

第十一位 第三分団

第十二位 第三分団

第十三位 第三分団

第十四位 第三分団

第十五位 第三分団

第十六位 第三分団

第十七位 第三分団

第十八位 第三分団

第十九位 第三分団

第二十位 第三分団

第二十一位 第三分団

第二十二位 第三分団

第二十三位 第三分団

第二十四位 第三分団

第二十五位 第三分団

第二十六位 第三分団

第二十七位 第三分団

第二十八位 第三分団

第二十九位 第三分団

第三十位 第三分団

第三十一位 第三分団

第三十二位 第三分団

第三十三位 第三分団

第三十四位 第三分団

第三十五位 第三分団

第三十六位 第三分団

第三十七位 第三分団

第三十八位 第三分団

第三十九位 第三分団

第四十位 第三分団

第四十一位 第三分団

第四十二位 第三分団

第四十三位 第三分団

第四十四位 第三分団

第四十五位 第三分団

第四十六位 第三分団

第四十七位 第三分団

第四十八位 第三分団

第四十九位 第三分団

第五十位 第三分団

第五十一位 第三分団

第五十二位 第三分団

第五十三位 第三分団

第五十四位 第三分団

第五十五位 第三分団

第五十六位 第三分団

第五十七位 第三分団

第五十八位 第三分団

第五十九位 第三分団

第六十位 第三分団

第六十一位 第三分団

第六十二位 第三分団

第六十三位 第三分団

第六十四位 第三分団

第六十五位 第三分団

第六十六位 第三分団

第六十七位 第三分団

第六十八位 第三分団

第六十九位 第三分団

第七十位 第三分団

第七十一位 第三分団

第七十二位 第三分団

第七十三位 第三分団

第七十四位 第三分団

第七十五位 第三分団

第七十六位 第三分団

第七十七位 第三分団

第七十八位 第三分団

第七十九位 第三分団

第八十位 第三分団

第八十一位 第三分団

第八十二位 第三分団

第八十三位 第三分団

第八十四位 第三分団

第八十五位 第三分団

第八十六位 第三分団

第八十七位 第三分団

第八十八位 第三分団

第八十九位 第三分団

第九十位 第三分団

第九十一位 第三分団

第九十二位 第三分団

第九十三位 第三分団

第九十四位 第三分団

第九十五位 第三分団

第九十六位 第三分団

第九十七位 第三分団

第九十八位 第三分団

第九十九位 第三分団

第一百位 第三分団

第一百一位 第三分団

第一百二位 第三分団

第一百三位 第三分団

第一百四位 第三分団

第一百五位 第三分団

第一百六位 第三分団

第一百七位 第三分団

第一百八位 第三分団

第一百九位 第三分団

第一百十位 第三分団

第一百十一位 第三分団

第一百十二位 第三分団

第一百十三位 第三分団

第一百十四位 第三分団

第一百十五位 第三分団

第一百十六位 第三分団

第一百十七位 第三分団

第一百十八位 第三分団

第一百十九位 第三分団

第一百二十位 第三分団

第一百二十一位 第三分団

第一百二十二位 第三分団

第一百二十三位 第三分団

第一百二十四位 第三分団

第一百二十五位 第三分団

第一百二十六位 第三分団

第一百二十七位 第三分団

第一百二十八位 第三分団

第一百二十九位 第三分団

第一百三十位 第三分団

第一百三十一位 第三分団

第一百三十二位 第三分団

第一百三十三位 第三分団

第一百三十四位 第三分団

第一百三十五位 第三分団

第一百三十六位 第三分団

第一百三十七位 第三分団

第一百三十八位 第三分団

第一百三十九位 第三分団

第一百四十位 第三分団

第一百四十一位 第三分団

第一百四十二位 第三分団

第一百四十三位 第三分団

第一百四十四位 第三分団

第一百四十五位 第三分団

第一百四十六位 第三分団

第一百四十七位 第三分団

第一百四十八位 第三分団

第一百四十九位 第三分団

第一百五十位 第三分団

第一百五十一位 第三分団

第一百五十二位 第三分団

第一百五十三位 第三分団

第一百五十四位 第三分団

第一百五十五位 第三分団

第一百五十六位 第三分団

第一百五十七位 第三分団

第一百五十八位 第三分団

第一百五十九位 第三分団

第一百六十位 第三分団

第一百六十一位 第三分団

第一百六十二位 第三分団

第一百六十三位 第三分団

第一百六十四位 第三分団

第一百六十五位 第三分団

第一百六十六位 第三分団

第一百六十七位 第三分団

第一百六十八位 第三分団

第一百六十九位 第三分団

第一百七十位 第三分団

第一百七十一位 第三分団

第一百七十二位 第三分団

第一百七十三位 第三分団

第一百七十四位 第三分団

第一百七十五位 第三分団

第一百七十六位 第三分団

第一百七十七位 第三分団

第一百七十八位 第三分団

第一百七十九位 第三分団

第一百八十位 第三分団

第一百八十一位 第三分団

第一百八十二位 第三分団

第一百八十三位 第三分団

少年の事故
・ 非行

地域ぐるみで追放を

最近の、少年の事故・非行の現状にかんがみ、これまでの生徒指導を総点検し、焦点をひとりひとりの生徒にあててその充実を図り、この夏休み期間中の事故・非行の絶無のため万全を期したいと考えますので、町民の皆様にもなにとぞ御協力をお願い致します。

なお、憂慮すべき事態が発生する恐れがある時や発見した場合には、ただちに学校または、関係機関にご連絡くださるよう併せてお願い致します。

昭和52年8月

東由利町教育委員会
秋田県立本荘高等学校下郷分校
東由利町立東由利中学校
本荘警察署東由利警察官駐在所

最近における少年の事故（特に交通事故）や、非行の実態を重視した県教育委員会では、先ごろ全県の中学校、高等学校の教頭を地区別に集めて、窮めて憂慮すべき事態である旨を宣言し、各学校が総力をあげて、事故防止、非行防止に対処するよう強く要請しました。

これを受けて県内の各学校では、地元教育委員会等と提携し、この夏休み期間中の事故と非行の防止に全力をあげています。

△交通事故の防止△

高校生必要以外の運転はダメ

最近、高校生のバイクや自動車による交通事故が目立っていますが、これらが多くは、運転の未熟とスピードの出し過ぎに起因するものが多く、県内でも今年に入つてすでに数人の死亡者が出ています。

県内の高校では、こうした悲惨な事故を未然に防止するための一策として、「免許証の一時預かり」など、かなり強硬な防

止策をとっているところも數校

ありますが、まだまだ憂慮すべ

き事態が続くものと思われる現

状です。

交通事故の悲惨さについては今さら申し上げるまでもありませんが、高校生の場合となるとなお悲惨です。本人の一生は大きく変えられ、本人も家族も精神的にも、経済的にもどん底の生活が余儀なくされることには、過去の例が示しています。

こうした危険を少しでもなく

するために、絶対に自

転車（バイク）を運転させない。

遊びのためには、絶対に自

△ 非行の防止 △

タバコは大人が

勇気をもつて制止を

未成年の飲酒や喫煙は、非行の第一段階と考えなければなりません。

自我の意識に目ざめ始めた彼らにとって、飲酒や喫煙は「ある種の自己主張」であり、たいへん興味深いものです。ですから家庭や周囲が放つておきますと、その刺激に慢性化し、また新しい、もっと刺激のあるものを探めるようになり、その誘惑

に負けては、一段一段と非行の段階を下つていきます。

しかし、これら特にタバコは大人でさえからだに悪いのですから、まだ大人になつてない彼らのからだには、大きな影響を与えることを忘れてはなりません。

私たちは、今一度次のことに注意し、未来ある彼らのからだと心を非行の魔の手から守りましょう。

- 集会や会合でも、高校生はもちろん未成年には酒はすすめない。

- 家庭にあつても、「お盆だから……いいだろう」、「一杯ぐらい……いいだろう」といつてすすめない。

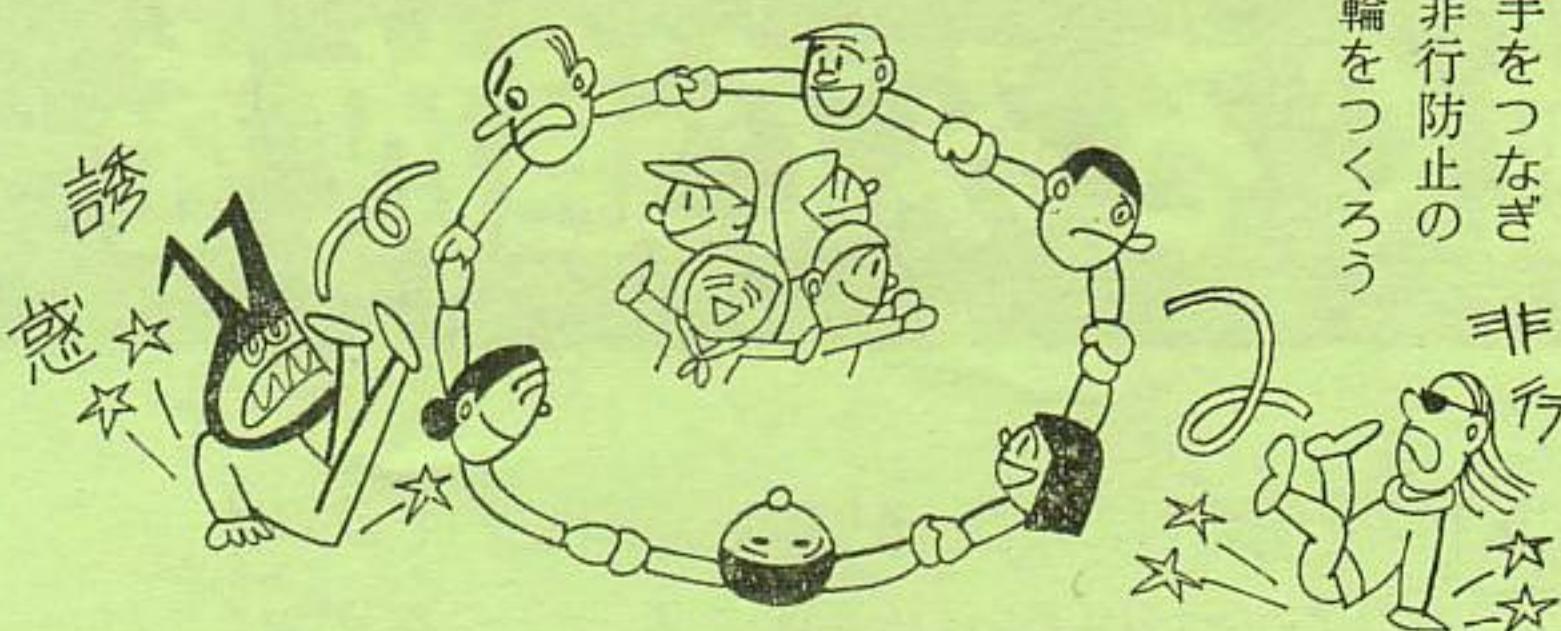
- 同級会などの場所は、小学校を借り、必ず恩師の出席の元で行うよう、周囲でアドバイスする。

- 酒やタバコを販売している業者の方は、未成年には売らない。家族に頼まれたときは、そのことを確認してから売る。

- これらは、私たち大人が勇気を持ってば制止できることばかりです。大人と子どもが積極的に手をつなぎ、非行防止の輪を大きくしてこう。

※ 制止する

勇気を持とう みなわが子



ガミガミ 言うばかりでは：

こどもの
悩みに
目をむけよう

△ 夏休みの心得 △

開放感が事故のもと

夏休みであるという開放感からの事故や非行の発生も、十分に予想されます。忙がしさに追われて子どもとの対話をおろそかにしたりすることなく、子どもとの心と生活に目をむけ、子どもとの心のきずなをしっかりとおきましょ。

中学校、高等学校からも、夏休み期間中の生活の心得については、生徒に十分注意してあります。ですが、家族や周囲も次のようには特に気をつけ、気ゆるみからの事故が発生しないよう最大限の努力をはらいましゅう。

- 父兄の了解のもとに、夜間は用事のある場合以外は外出しない。特に女子は父兄同伴が望ましい。
- 外泊は、特別の場合を除いて厳に慎しむように。
- アルバイトについては、家庭でも十分に注意し、担任の先生の許可を得てからするよう。給金の使い方に特に、家庭の指導がほしい。
- 学習について、がみがみ言葉のは望ましくありませんが、全く、無関心であるのも困ります。子どもが学習しやすい環境づくりにも配慮がほしい。



— A 少年の非行 —

A 少年十五歳、中学三年生。
父親四十五歳、工員。酒を

飲むこととテレビを深夜番組を見るなどを唯一の楽しみとしている。

母親三十八歳 保険外交員。
保険の勧説等のため帰宅時間が不規則で、土・日曜日もしばしば家を空けている。

祖父母とも無職、中学一年の弟との六人家族である。

幼年期を母親に代つて祖父母の手で、甘やかされて育つたためか、意志が弱く、怠惰で我ままな性格である。

中学二年のころから、ポルノ雑誌や映画に興味を持ち、毎月の小遣いのほとんどはこれらの雑誌や映画にあてていた。父兄や担任の先生から注意を受けると、家出を繰りかえし、警察に補導されたことがある。

八月始めのある日、自動販売機でポルノ雑誌を買い、その足で駅前の映画館に入つた。少年が家路についたのは、午後七時半過ぎで、その途中、自宅近くで二十三歳四歳のブルーのスカートの女性に追い越された。昼間のポルノ雑誌やポルノ映画のヌードシーンに彼女の後姿をだぶらせた少年は、暗がりで通行人のないことを幸いに、後から抱きつき、大声で叫ぶ彼女に乱暴し

ハンドバックから現金を抜き取り、自宅に帰ると二階の窓から入つて、眠つてている風を装つた。

届け出を受けた警察は、その日のうちに少年を逮捕し、三日後に地検へ送致した。

——少年の非行はなぜおこるのか——

いつも帰りの遅い母親、酒を飲んではテレビばかり見ている父親、祖父母と食べる両親のいない夕食……少年の心を理解し、愛情を満たすものが家庭にはない……それだけ非行に走る条件は十分である。

この種の事件は、A 少年の場合だけでなく、場所を変えて場所を変えてでも十分に起こりうる事件ではなかろうか。青少年を良い環境で育て、心もからだも健康に将来に贈ることこそ、私たち親の義務であり、社会の責任ではないだろうか。





カメラ
ルポ

宿小プールオープン

地区的子どもたちが、完成するのはいつの日か、と待ちに待つた宿小学校プールが完成し、七月二十五日に竣工式が行われました。

式典は、神事のあと、町長、伊藤校長、児童代表の佐々木百合賀の三人がテープカット。工事概要の報告のあと、工事に尽力された三業者に感謝状を贈呈。「……このプールを活用し、より健康で立派なからだと心をつくります」と、小野寿喜君が児童を代表して喜びのことばを述べ、終了しました。

東由利中学校水泳部員による基

▲ 式典が終っていよいよプールへ
— 子どもたちは大はしゃぎ

◀ 元気いっぱいに喜びのことばを
のべる小野寿喜君

▼ プールの完成はこの夏この子ら
への最大のプレゼント

礎遊泳の公開のあと、いよいよ全児童がプールへ。三度を越すうだるような暑さの中で、子どもたちは、水しぶきをあげ全身でプールの完成を喜んでいました。

規模は、昨年建設された住吉小学校プールより、児童プールが大きいほかはほぼ同じで、場所は同校裏の眼下に国道一〇七号線を見おろせる好環境です。

なお、この夏休み期間は、蔵小学校と袖山小学校の児童にも開放されています。

ねんきん問と答

問 私の主人は、昨年十一月から厚生年金保険の老齢年金をうけられることになりました。

答 受給権者が死亡した場合、当然受けられるのに受けないなかった年金額を「未支給金」といいます。

問 未支給金が生ずる場合は、支払月の前に亡くなられた時やそ

れども、私には、今後遺族年金が支給されるとのことです。ですが、主人が受けべきだった老齢年金はどうなるのでしょうか。

答 未支給金のある年金の裁定請求を行っていかなかったときです。

問 この未支給金を受けることのできる遺族は、受給権者の死亡の当時、その受給権者と生計をともにしていた配偶者、子、父

母、孫、祖父祖母、または兄弟で、この順に自己の名で請求す

費限度額 八月から五万一千円に

自己負担分三〇%増

国民健康保険（国保）の高額療養費限度額が、今八月診療分より約三〇%引き上げられて五万一千円になりました。

昨年八月の引き上げから一年足らずで再度引き上げられ、被保険者の負担が大幅に増えることになったのは、国保の財政ピンチに歯止めをかけることが最大の理由となっています。

国保は、原則として医療費の七割分を保険が、三割分を患者自身が負担するしくみになっていますが、一定条件のもとで三割の自己負担額が一定限度額を超える場合、その超える分を七割分とは別に、さらに保険で負担するいわゆる「高額療養費支給制度」で補完するしくみになっています。

高額療養費支給制度でいう一定条件とは、同一月内に同一診療機関で受診した場合の入院・外来・歯科別医療費のことであり、一定し度額とは三割の自己

負担分に対する枠のことです。自己負担分の枠、つまり限度額は七月診療分までは三万九千円でしたが、今月診療分からは五万一千円に引き上げられました。

したがって、高額療養費に該当した場合、これまで三割の自己負担分がどんなに多くなつても三万九千円だけで済んでいたものが、今後は五万一千円を負担しなければならなくなつたのです。

貸し付けを希望される方は、次のものを持参して役場（住民課住民厚生係⑤の窓口）に申し出してください。

● 医療機関からの一部負担金請求書（あるいは明細書）
● 被保険者証（保険証）

ることができます。

なお、先順位者がいるときは後順位者は請求できません。

未支給金の請求方法は、「厚生年金保険未支給保険給付請求書」に必要書類を添えて、住所

地の社会保険事務所を経由して社会保険庁長官に提出します。

あなたの場合、亡くなれた方があなたの財政ピンチに歯止めをかけることになり、あなたが、その受給権のある老齢年金の裁定請求をされていかなければ老齢年金の裁定請求書を立てて提出する必要があります。

またこれとは別に、町では高額療養費の支払いが困難な方につなぎ資金として、高額療養費支払い見込額の八〇%を三か月以内の期間で、無利子で貸し付ける「高額療養費貸付制度」を設けて、七月から貸し付けを開始しています。

貸し付けを希望される方は、次

うちのおじいちゃん おばあちゃん

藏小六年 木島郁子さん



子どもたちとの理解を深めよう 一と、ことぶき大学では先ごろ朋楽荘で、小・中・高校生との交流会を行いました。

23名の児童・生徒が自分のおじいさん、おばあさんについてやお年寄りに望むことなどについて発表したあと、意見の交換を行い、お互いに理解を深めあいました。

以下、小・中学生の発表のいくつかを掲載しましたので、現代っ子の“老人感”“老後感”をのぞいてみてください。



のいい夫婦です。結婚してから四十七年になります。

おじいちゃんは、お酒が好きでよく飲んでいます。おじいちゃんは、とてもなか

んは、とおじいちゃんとおばあちゃんは、ともなか

んは、とおじいちゃん

イギングしたり、あそんだりしていてください。
ぼくは、このごろの老人についてこう思います。
歩いてたり、走ったりする機会がちよつと少ないと思います。
たまに、寿大学で「歩け、歩け」という行事をするそうですが、それだけではものたりないと思います。それぞれ一人一人が毎日の運動を心がけ、健康ながらづくりをしたらいと思想です。

ぼくたちが、みんながたに感謝しなければならないことはたくさんあります。
第一に、ぼくたちが赤ちゃんだったころ、おもりをしてくれたですね。おもらししたとき、くさいのをがまんして、とりかえてくれたそうですね。あのときはほんとうにありがとうございました。

でも、こんどはぼくたちがみんなさんがたのお世話をするばん手伝つたり、あるいは仕事をぼくたちがうけもつようになることもあるでしょう。

しかし、ぼくたちが直接仕事を変つてやるまでには、まだ長い年月がありますので、それまで、楽しく旅行したり、ハ



お年よりについて

宿小六年 佐々木正勝君

いすます。だから、お年寄りのことについてはよくわかっているつもりです。

おじいちゃん・おばあちゃん 元気で長生きしてね

イギングしたり、あそんだりしていてください。
ぼくは、このごろの老人についてこう思います。

歩いてたり、走ったりする機会がちよつと少ないと思います。

たまに、寿大学で「歩け、歩け」という行事をするそうですが、

それだけではものたりないと思います。それぞれ一人一人が毎日の運動を心がけ、健康ながらづくりをしたらいと思想です。

たとえば、うちのおじいさんやおばあさんは、毎日お父さん

やお母さんに負けないくらい仕事をします。ぼくたちがやらからとしても「健康のためだから」といつて仕事をします。このような心がけが必要だと思

ます。

みなさんも、健康のためにどんどんがんばつてください。また、寿大学でも「寿大学運動会」というような行事をつくつて健康づくりにはげんでください。

ぼくたちが赤ちゃんと一緒に、くさいのをがまんして、とりかえてくれたそうですね。あのときはほんとうにありがとうございました。

でも、こんどはぼくたちがみんなさんがたのお世話をするばん手伝つたり、あるいは仕事をぼくたちがうけもつようになることもあるでしょう。

しかし、ぼくたちが直接仕事を

変つてやるまでには、まだ長い年月がありますので、それまで、楽しく旅行したり、ハ

ります。

おとなの人たちは、お年よりは孫をあまやかすとよくいいます、ぼくもそう思います。

お年よりは古い時代の生まれ

なので、時代おくれだといわれています。しかしこの点は、お

年よりが自分の経験したこと

ものさしにするから、そういうわ

れるのではないか、そして、そ

のことをいまの時代とてらし合

せてみないからだと思います。

ぼくは、お年よりにはそんけ

いすべき点がたくさんあると思

います。

ぼくのおばあさんを例にする

と、おばあさんはがまん強くて

何んでもよくやつて、ぼくだつ

たらすぐにやめてしまう仕事も

平氣で最後までやり通します。

そのほか、しんぼう強い点も

いっぱいあります。

となりの家のおばあさんやぼ

くの家のおばあさんを見ている

と、古いものをうまく使つて、

現在の生活にびつたり合つたも

のを作つて役立てている点は、

とてもすばらしいと思います。



わたしの家の おばあさん

東中二年 煙山 泉さん

わたしは、小さ

いころね

る前によ

くおばあ

さんには童

話をしてもらいました。そ

の中でもよくおぼえている

のは、「こめぶくとあわぶく」という話と「うさぎのダンス」

という歌です。

「こめぶくとあわぶく」の話

は、そのまま聞かせると、わた

しがないなりするので、よく変

えた話をするとおもしろいの

で、わたしが「もつと話して」

とせがむので、おばあさんは相

当てこずつたらしいです。

「うさぎのダンス」という歌

は、変わったことから関係者の間から

その整備充実が強くのぞまれて

いたものです。

お年よりのみなさん、からだに気をつけて病気をしないで長生きしてください。

おとなのな人たちは、お年よりは孫をあまやかすとよくいいます、

ですが、ぼくもそう思います。

お年よりは古い時代の生まれ

なので、時代おくれだといわれています。しかしこの点は、お

年よりが自分の経験したこと

のことをいまの時代とてらし合

せてみないからだと思います。

ぼくは、お年よりにはそんけ

いべき点がたくさんあると思

います。

ぼくのおばあさんには童

話をしてもらいました。そ

の中でもよくおぼえている

のは、「こめぶくとあわぶく」という話と「うさぎのダンス」

という歌です。

「こめぶくとあわぶく」の話

は、そのまま聞かせると、わた

しがないなりするので、よく変

えた話をするとおもしろいの

で、わたしが「もつと話して」

とせがむので、おばあさんは相

当てこずつたらしいです。

「うさぎのダンス」という歌

は、変わったことから関係者の間から

その整備充実が強くのぞまれて

いたものです。

今回の整備では、指定を受け

度の規模で、公式競技ができる

かつたことから関係者の間から

その整備充実が強くのぞまれて

いたものです。

同射撃場は、昭和四十五年に

二台の中古機械を設置、県内二

十七番目のクレー射撃場として

指定を受けていますが、ハンタ

ーの実技講習として間に合う程

度の規模で、公式競技ができる

射撃競技は心身のスポーツと

して近年、年ごとに盛んになつ

てきており、全国の競技人口も

ふもの）一面を設置、県の指定

を受けたものです。

本町でも六十人を超す愛好者

があり、昨年度は本荘市由利郡

クレー射撃大会で初の団体優勝

を飾るなど、めざましい活躍を

しています。

今回の同射撃場の整備充実は

健全なスポーツとしての射撃競

技の振興のみならず、本町の場

合は田畠や山林に大きな被害を

及ぼす野兎やカラスなどの有害

鳥獣駆除従事者の実技訓練の場

としても活かされるなど、大き

なメリットがあるものと見込み

されています。

完成式は七月十日現地に多く

の来賓を迎えて行われ、同二十

三日には、県内各地から約七十

名の選手を迎えて盛大にオープ

ン記念射撃大会が開催されました。

射撃場の整備充実は関係

者の念願でした——その

高活用が期待されます

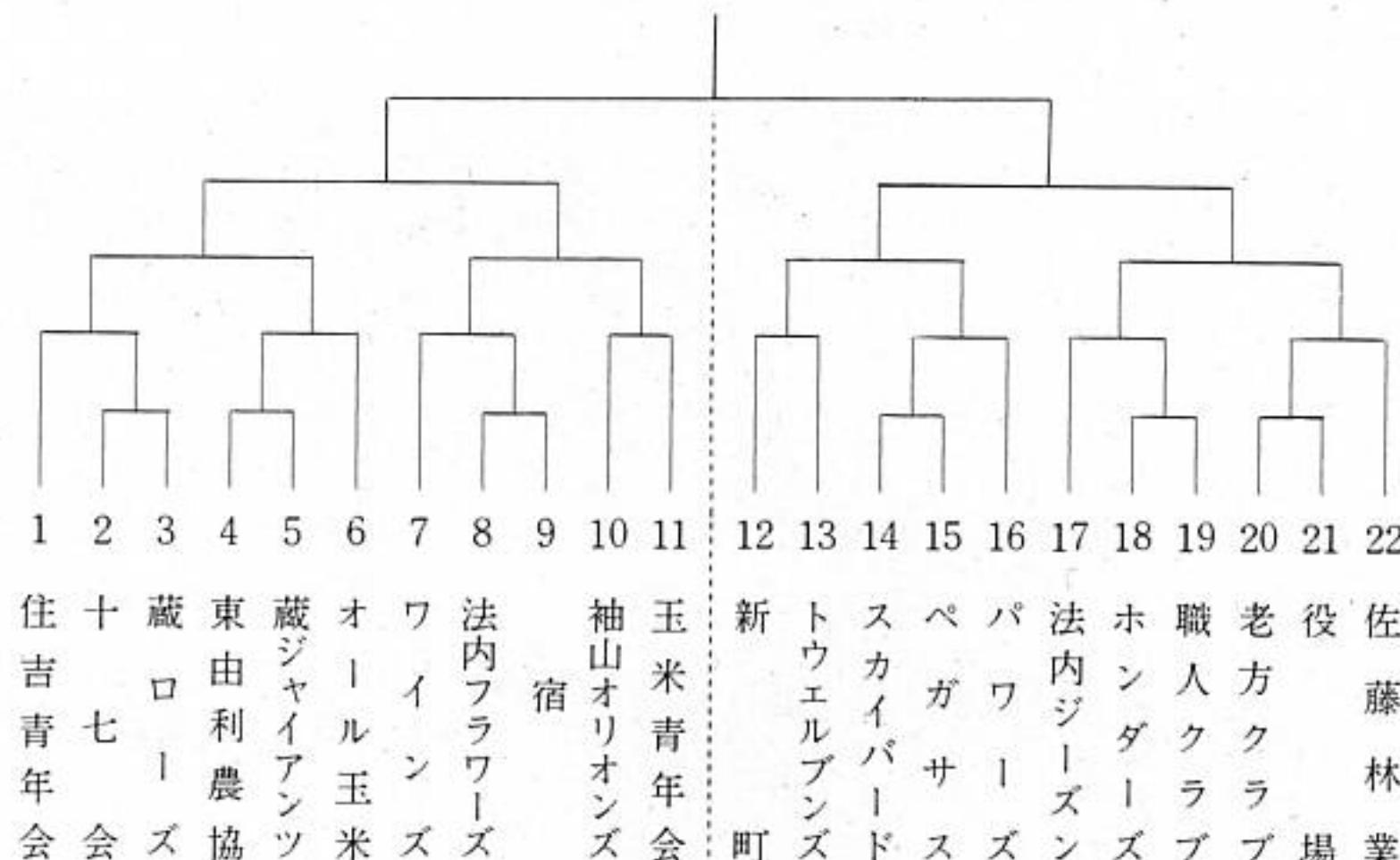
スキー部 増設 規模は郡内一に 大平射撃場の整備完成



射撃場の整備充実は関係者の念願でした——その高活用が期待されます

射撃場の整備充実は関係者の念願でした——その高活用が期待されます

第19回東由利町社会人野球大会組合せ



第19回社会人野球大会

二十二チームで16日から

お盆休み期間の恒例行事となつてゐる町野球協会（小松民三郎会長）主催の、第十九回東由利町社会人野球大会は、八月十

六・十七・十八日の三日間にわたり、台山グランドと町民グラウンドを会場に開催されます。

今年の大会は、昨年より二チ



善 意

町社福へ五万円

小野作右工門さん（藏新田）は、見舞金のお返しとして先ごろ町社会福祉協議会へ五万円を届けられました。

どうもありがとうございました。

◇ ◇ ◇

宿小に座イス二十脚

秋田市在住の宿会（代表

煙山清作氏）のみなさんは、先ごろ行われた宿小学校ホールの竣工に際し、同校に座イス二十脚を寄贈されました。

夏は、ほかの季節に比べて食物の変質が早く、食中毒のおこりやすい季節です。新鮮なもの、新しいものを食べるよう心がけましょう。



慶弔

6月21日 - 7月20日

斎小藤野昭吉子秋高海村屋

遠藤信子志村多栄子新町康介

○お悔み申し上げます
○おめでとう
○おしあわせに

○誕生
○結婚

七月一日号町報ですでお知らせしてありますが、町では昭和三十年に東由利村が誕生して以来、昭和四十九年四月に町制を施行するまでの村報を「縮刷版」として発行します。

先に各部落に回覧し、すでに四〇〇部を越える申し込みを受けていますが、まだ申し込みに

申込みは役場総務課へ

なつておらない方、また申し込みを忘れておられる方はありますか。八月十日で申し込みは〆切られますので、早めに申し込みください。

なお、「縮刷版」は出版代金四〇〇円の半額を町が補助します。

小野義隆	阿部紀子	鈴木政也	小松昭	上里	藏柴義嗣
佐藤光彦	古閑光春	加藤仙友	舟打場	舟打場	善孝
長谷山由香	地下水	鈴木慎吾	大沼一廣	市朗	長男
佐藤静江	宿	佐藤留吉	佐藤アサエ	政雄	二女
忠	新町	佐藤留吉	宇戸坂	富男	長男
幸助	高村	大沼一廣	横渡	健一	二男
秀雄	湯出野	木島正造	黒瀬	清一	二男
宗市	新町	藏新田	宇戸坂	長男	二女
長女	長女	67歳	70歳	56歳	84歳
二女	二女	71歳			

夏休みも

みんなそろつて

交通安全

する予定であり、激しい熱戦が展開されることが予想されます。日程、対戦組合せは次のとおり。

期日 八月十六日 - 同十八日

(雨天順延)

場所 台山グランド

町民グランド

水の日に思う

今年から8月1日が「水の日」同日から1週間が「水の週間」と定められた。水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の关心を高めることが制定の趣旨とされる。

水が人間の生活に欠かすことのできないものであり、しばしば人命、財産に大きな災害をもたらすものであるため、地方公共団体における水に関する仕事は極めて多い。治水事業からかんがい水道等の利水事業、更には排水や下水とその処理に至るまで幅広い。

堯、舜の昔から「水治って国興ず」といわれたが、戦争中の国土の荒廃によってもたらされた災害に対し、戦後の窮乏の中からも地方公共団体は治山治水の事業に全力を傾けた。TVAの理想に情熱をかきたてられて、全国各地に治水、かんがい、発電等のための多目的ダムの建設が行われたのもこのころであった。その後治水から利水に事業の重点は移り、経済の高度成長の過程を経て、今水資源の有限性を省みるに至ったということであろうか。

水はすべて生あるものの根源として、その生存を支えるだけではなく、人間の精神生活にも大きな役割を果たした。チグリス・ユーフラテスの時代より、水のあるところに文化が生れ、水とともに文化は育った。それぞれの地域における水と人のかかわり方によって、異なる民族性、異なる文化が形づくられてきたとも言えよう。

水を神聖なものとし、河を母と賛える民族も多いが、太平洋モンスーン地帯に属し、水稻作民族である日本人は、その利水に関する共同生活によって独自の民族性を育て、水に対する感謝や畏敬の中に独特的文化、独特的感受性を培ってきた。そして水に托して人生の知恵を語ることがいかに多いか、「水は舟を載せ、亦舟を覆えす」といって、「水は逆に流れず」「流れる水は腐らず」と言う。

地方行政に従っていてもまた通ずるものがある。そして最近にも水徳五訓なるものにいわく「常に低きに就き、地下にありては万物を生成化育するものは水なり」「淡々と無味なれど真味なるものは水なり」と。人間このように生きることができれば真骨頂といふべきか。

(K)

東由利町報

No. 262 昭和52年8月15日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



No. 262

8 / 15

(東由利町農業総合指導センター)

営農メモ

今年は好天に恵まれ稲の生育は順調です。
最後まで管理を徹底し、高収穫を期待します
よう。

◇穂いもち病の傾穂期防除

八月下旬は天候の不順が予測され、穂いもち病の後期感染が考えられます。傾穂期防除も行い、穂いもち病を防除することが大切です。

キタジンP乳剤は出穂前四十五日、キタジンP粉剤、ヒノザン粉剤は出穂期二十一日までの使用基準になつており、使用には注意が必要です。

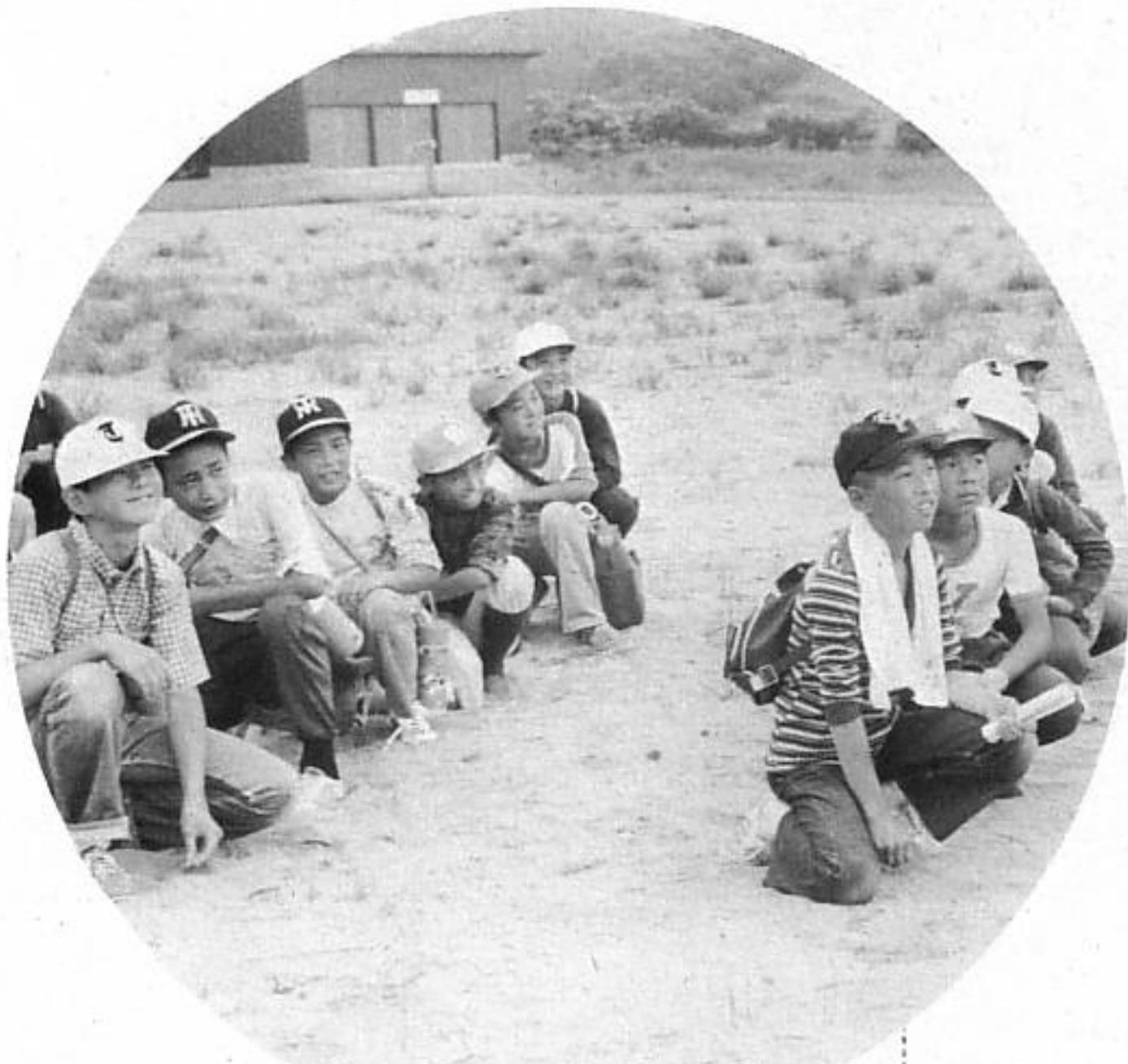
◇傾穂期以降の水管理

稔実をよくするためには水分の補給が円滑でなければなりませんが、深水灌水の必要はなく、間断灌水などを行い、灌水期間は圃場の排水の良否と刈取り作業の難易を考えなければなりませんが、少なくとも、出穂後二十五日間は極端にわれたり、乾しそぎないよう注意しなければなりません。穂いもち病、白葉枯病の発生田では早期落水は危険が伴いますので、なるべく遅らせることが大切です。

かにたくましく

「自然教室」を実施

の輪を広げよう



キャンプ生活と登山の注意に耳を傾ける子どもたちの目は真剣そのもの……自然教室はここから始まった

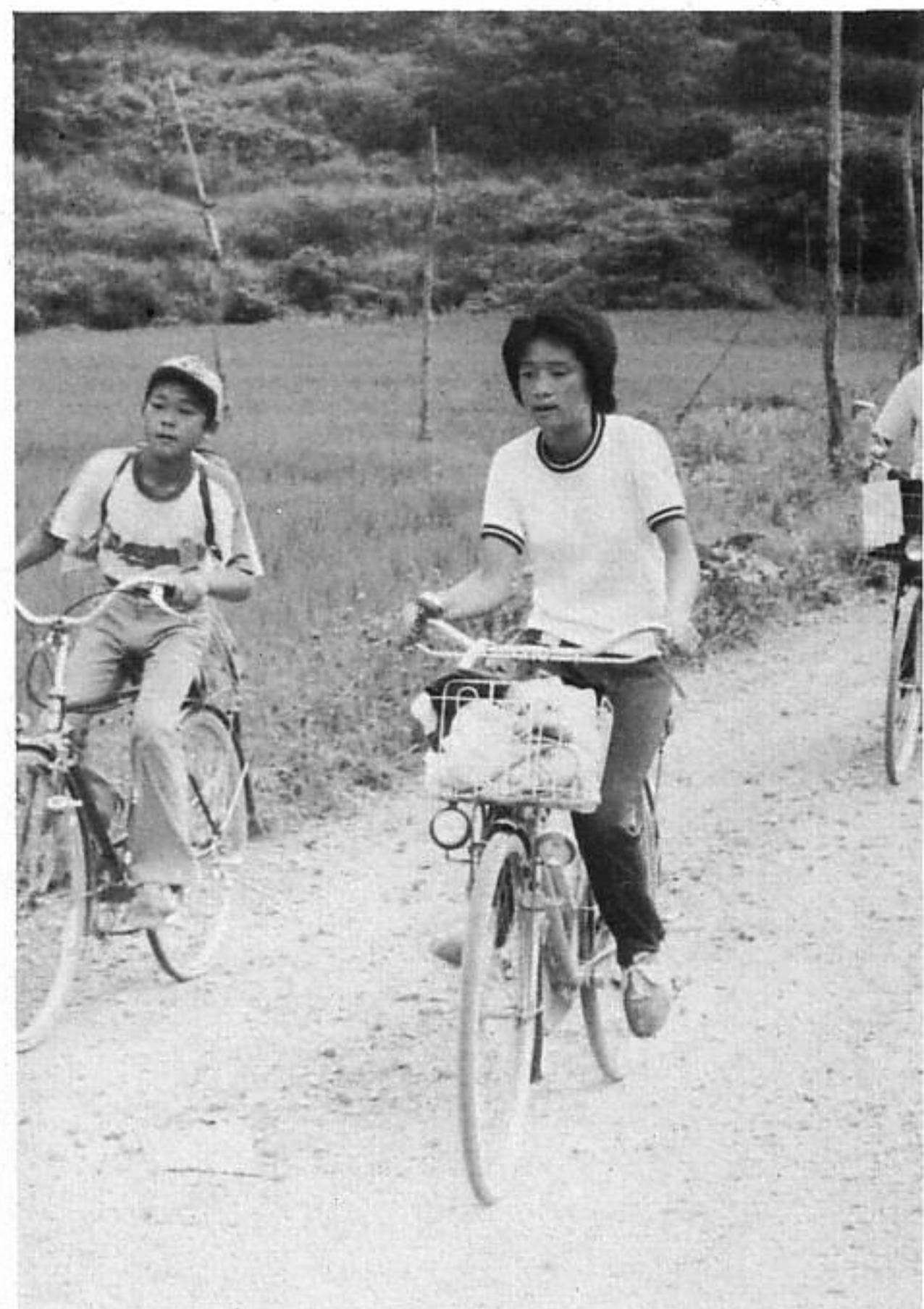
八塩登山は下からながめているようなものではなく皆戦苦闘……1人の落伍者もなく山頂征服



美しい大自然の中で、楽しい共同生活の経験を通して子どもたちに創造力と豊かな情操を身につけさせ、同時に郷土愛を高揚させよう——というねらいで去る七月二十八・二十九日の両日、町内の小学六年生を対象に「少年自然教室」が開催されました。

この教室は、町公民館の主催で行われたもので、自主参加で五十八名が参加、そのほか公民館長以下関係職員、伊藤（玉小）、笹本（同）、阿部（住小）中津川（宿小）、猪股（東中）の各先生も参加し世話をあたりました。

第一日目の二十八日は、いこいの森をベースキャンプにし、登山についての説明をうけたあと、午前九時いよいよ八塩山へアタック。八塩山へ登るのは大



初めて参加する楽しいキャンプ……ペダルを踏む足にも思わず力が入る……まずはいこいの森へ

途中で何度も休憩するたびに展望はよくなり、先生から「△山……」と説明をうけ、郷土への認識を深めました。

出発して約三時間——途中でへたばりおんぶされた子もありましたが、とにかく全員が無事山頂へ到着。

ザックを開けて楽しい昼食、望を楽しみ、歌ったり話したりしたあと、午後一時半下山開始。

約二時間で下山したあと、テントの設営、飯盒でのご飯たきなど子どもたちにとっては初めてのことばかり。

夕食のあとはいよいよおまちかねのキャンプファイヤー。公

部分の子どもたちが初めてといふことで皆おおはしゃぎ——とは言つても、だんだん草木の茂みが険しくなり急坂になると、さすがの子どもたちも口数が少くなり、目が山頂を追うだけ……。

二日目は、起床——朝のつどい朝食準備——朝食、全員でソフトボールを楽しんだあと、十時からは反省会。

「登山は苦しかったが、頂上に着いた時にはうれしかった」「テントは、暑くて狭くて不容易でなかつたが、よい経験になつた」という声が多く、中には「先頭を登つた先生方はあの年で本当によくがんばつたと思います。ありがとうございました」と随行の先生方が激励される一幕もありました。

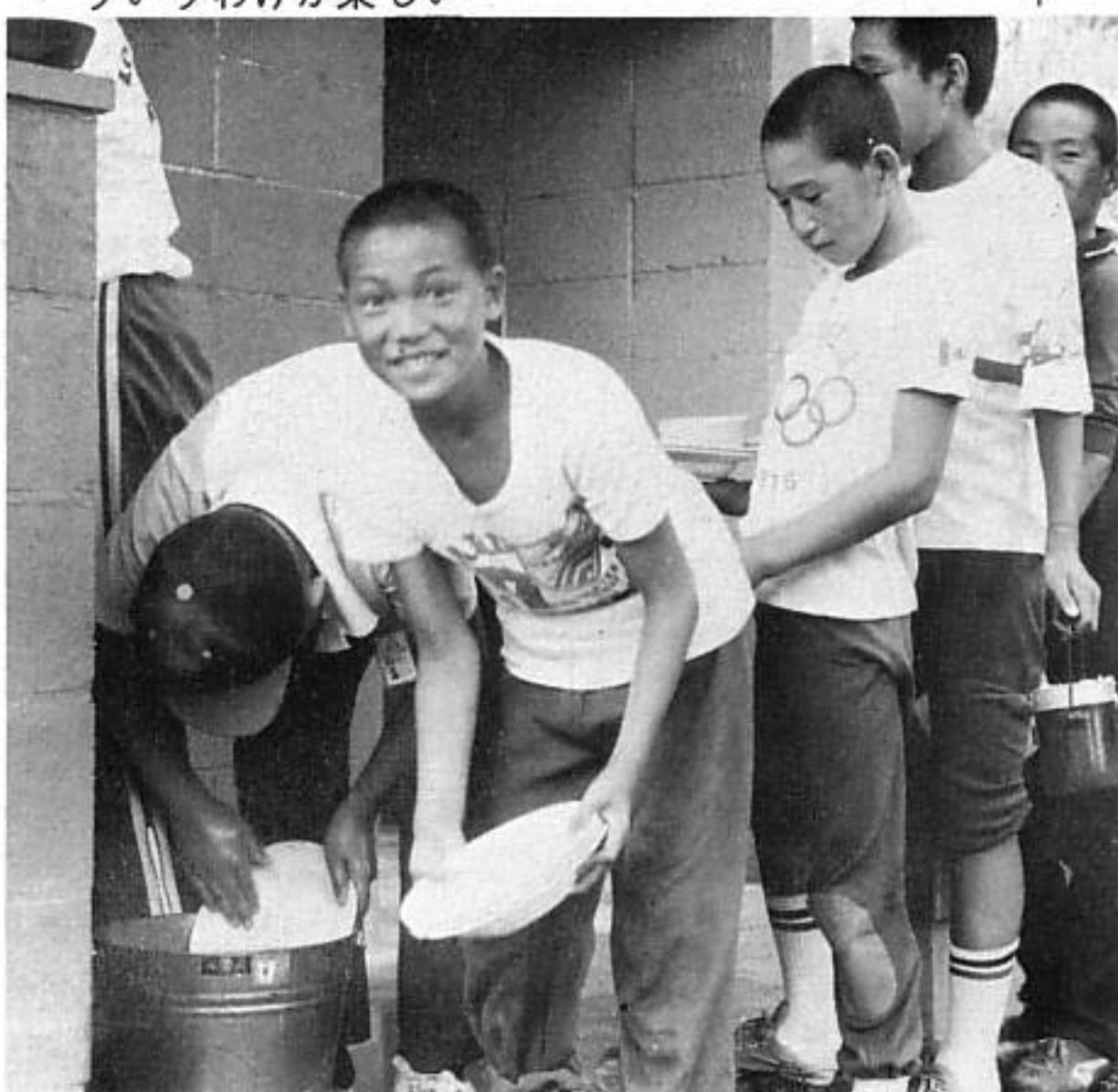
一泊二日という短期間の共同生活でしたが、その中で生まれた友情と思い出、初めて登つた八塩山の感激は楽しい思い出として、子どもたちの胸をいつまでもあたためることでしょう。

民館の畠山主事の指導で、午後九時半までキャンドルセレモニーや歌つたり、踊つたりして楽しい二時間を過ごしたあと、初めてのテントの夜に目をとじました。



飯盒を初めて見たという子どもも少なくなかつた……じょうずに炊けたかな

食事の後かたづけもこの教室の大事な日程……ふだんはいやなことでもキャンプですとどういうわけか楽しい



夜のメインはなんといってもキャンプファイヤー……初めてではあったが堂々と「これは友情の火……」いつまでも燃やし続けていこう



伸びよう心ゆた

八塩で「少年自

大自然の中で友情



焦げついていても自分たちが飯盒で炊いたごはんはかくべつ……おいしい？

テントも張り終え、まずは一息……楽しいキャンプの始まりです



町民総参加を具体化



研修会では生活に直結した要望が寄せられた

町では町民総参加の町政推進を具体化するため、昭和四十九年の町制施行を機会に町政モニター制度を発足させました。モニターの主な仕事は、特定事項に対するアンケートの回答や、町政への意見、要望あるいは苦情などを隨時町長に寄せるなどで、今年度も地区や職業、年齢、性別などを配慮して二十七名を委嘱し、先ごろその研修会を開催しました。

研修会は、午前中は町内視察研修を行い、積寒道路藏上里線・二次農構小田地区ほ場整備・神岡坂部横渡線・法内集落農場

組合・克雪管理センター・宿小ブル・林道土場沢線・冷水魚種苗生産施設・いこいの森・石高過疎農道・田代保健福祉館・住吉小ブル・町道須郷田跡見坂線・町民グランド・山村開発センター・公民館などを小松総務課長と町長の説明で視察しました。

午後からは朋楽荘で町長らと意見交換を行い、生活污水の処理や「ゴミ処理」など、生活に直結した問題について話をすみました。今年度の町政モニターに委嘱されたのは、次の方々です。



表紙のとば

（宮の前）・阿部佑子（野田）・千葉欽一（島）・木島富三（高村）・大庭周弥（舟木）・阿部成雄（桂台）・工藤市雄（畠山清雄（下吹）・小松篤（畠山）

量差を確かめる——ことであり、天候にも恵まれ、良好に成育したスイカは次々と収穫され、雄物川町大沢農協を通して販売されました。

同ゼミナールでは、昨年は大豆の摘芯移植栽培による増収を試み、大きな成果をあげているだけに、——販売代金返しとして十万円が届けられました。

どうもありがとうございました。

故佐藤アサエ殿のご遺族（宇戸坂、佐藤力さん）より、香典返しとして十万円が届けられました。

どうもありがとうございました。

故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

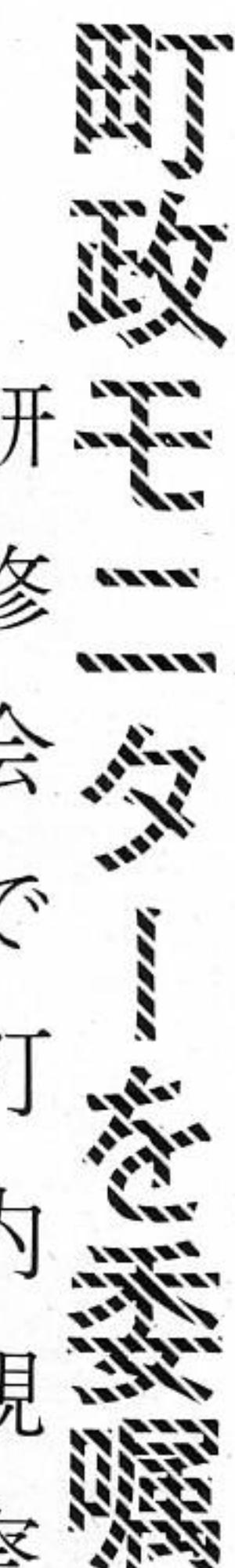
故木島正造氏（前町議）のご遺族（藏新田、木島正吉さん）より、香典返しとして五万円が届けられました。

どうもありがとうございました。

故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

今年の実習目標は——品種や台木のちがいなどによる收

研修会で町内視察



転籍届について

問 私の本籍は、鳥海村にあります。この町に住んでからすでに二十年余になります。

子どもたちも就職・結婚をする年齢になり、戸籍の謄本とか、抄本を必要とする場合がたびたびあってそ

のたびに郵便で鳥海村役場に請求していますが、不便なので本籍をこの町に移したいと思っています。本籍

を移すにはどうすればよいでしょうか。

答 本籍を移す（変更）こと

を転籍といいます。転籍するには転籍届をしなければなりません。

届け出は、東由利町役場でも、鳥海村役場でもできますが、届書（役場にあります）は二通提出しなければなりません。

また、届書には戸籍謄本を付けなければなりません。

詳しくは、役場の窓口におたずねください。

戸籍の窓口1問1答

時評

夏の終り、晩夏かが暦の上ではとうが、実際の気象は立秋の頃は

夏の真つ盛りで、炎の夏がようやく終りをつけ、錦の秋へと衣がえが始まるのももうすぐです。

夏の終り、晩夏かが暦の上ではとうが、実際の気象は立秋の頃は夏の真つ盛りで、炎の夏がようやく終りをつけ、錦の秋へと衣がえが始まるのももうすぐです。

炎の夏がようやく終りをつけ、錦の秋へと衣がえが始まるのももうすぐです。

51年度決算

町の台所より

町の政



町民運動場



住吉プール

3

昭和五十一年度一般会計の決算額は、国の総需要抑制策の後遺症もあって、歳入の伸び悩みが心配されました。最終的には前年度を二億一千三百万円余り上回る十三億六千二十九万七千円で、十三月上伸しました。

これは、不況克服のために国が大幅な公共投資を行ったのをうけて、町が国県の補助事業を最大限にとり入れたのと、財政の硬直化を抑えるための行政配慮が効果的にあらわれたものでした。

一方、歳出は産業振興の基盤となるほ場整備関連事業や道路建設事業などを中心に、福祉や教育等にもキメ細かく配慮し、懸案事項や重点事業を着実に実行し、かつ健全財政を維持しました。

歳出の最終決算額は十三億八十八万四千元で、前年度に比べて一億八千三百五十五万円余り十六・四%増になるようです。



ほ場整備も着々と



社福法人認可保育所になる

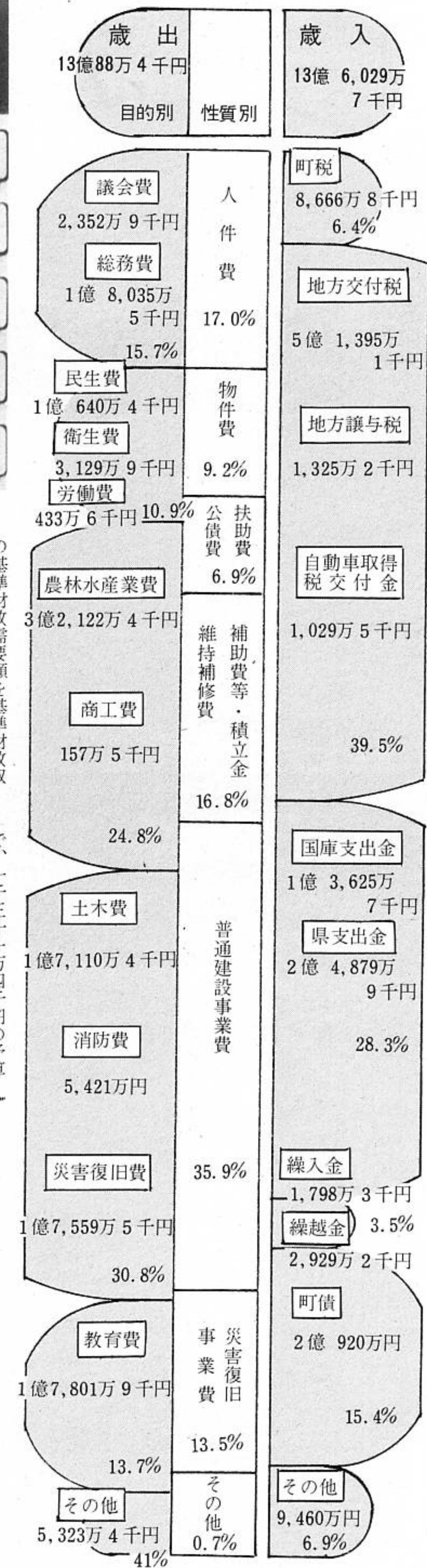
公 告
財政報告書の作成及び公表に関する条例（昭和三十一年条例第二十号）に基づき財政状況を次のとおり公表する。

昭和五十二年八月一日

東由利町長小松栄男

昭和五十一年度の決算の概要について報告します。
五月末日をもつて出納閉鎖した、一般会計および各特別会計の決算については、現在決算書の作成をすすめています。このたびの報告は、その事務段階での概要であり、したがって、このあと議会の承認を得て公表する「決算」とは、多少数値が異なることがあることを申し添えます。

一般会計



特別会計決算の状況

町には一般会計のほかに、独立した四つの会計があり、それぞれ町民のみなさんの便宜を図るための事業を行っています。これを「特別会計」といい、税金や国の補助金、使用料や手数料、一般会計からの繰入金などによって運営されています。



昭和五十一年度一般会計決算で歳入の主なものを、予算額と比較してみました。

▽町税

町税は、町を運営するための最も根本となるもので、この中には町民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ消費税、電気税などがあります。

五十一年度の町税は、前年度に比べて二十四・一%増にあたる八千二百五十九万九千円の予

算に対して、八千六百六十六万八千円が収納されています。

▽地方交付税

地方交付税は、財政力の弱い地方公共団体（市町村など）に対し、その団体が標準的な行政水準を維持し、運営ができるよう一定の計算によって国から交付されるもので、普通地方交付税と特別地方交付税の二種類があります。

普通地方交付税は、その団体

の基準財政需要額を基準財政収入額でまかなえない不足分を交付するのが原則です。一方、特別地方交付税は予測できない災害等特別の財政事情などが認められた時に交付されるものです。

地方交付税の特色は、補助金などにより使途について制約のないことです。

五十一年度の私たちの町の地方交付税は、最終予算が五億三百六十九万九千円であるのに対し、五億一千三百九十五万一千円が収納されています。これは歳入全体の三十七・八%を占めています。

で、一千三十一万四千円の予算に対して、一千四百八十九万円が収納されています。

△繰入金

財政調整基金などからの繰入が主であり、事業の進捗状況や他の財源の収納具合を見て措置するもので、二千七十一万三千円の予算に対して、一千七百九十八万三千円が措置されています。

△繰越金

前年度からの繰越しで、予算同額の二千九百二十九万二千円が収納されています。

△町債

建物を建てたり、道路や橋をつくつたりするために町が借り入れたお金のことで、一部の町債については毎年度の償還元利金の七割が、地方交付税に含まれて交付される仕組になっています。予算同額の二千九百二十九万七千円の予算に対し、三億八千五百六十円が収納されています。

△国・県支出金

補助事業の完了や実績の結果に対する交付されるものが大部分で、あわせて三億八千百四十九万五千円が収納されています。

△財産収入

基金利子と財産運用収入が主

年次	予算	歳入	歳出	差引残額
道計	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円
易業	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円
水道	四百三十七万八千円	八千五百五万六千円	八千五百五万六千円	四百三十七万八千円

年次	予算	歳入	歳出	差引残額
会計	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円
事業	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円
道計	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円

年次	予算	歳入	歳出	差引残額
会計	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円
事業	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円
道計	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円

年次	予算	歳入	歳出	差引残額
会計	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円
事業	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円
道計	一千八百十一万二千円	二千百十八万九千円	二億七千六百八十七万九千円	二千七百六十七万九千円

ます。皆様の構造改善事業の一層のご協力をお願いしますので、皆様の構造改良を遅滞なく押しすすめています。さらに、五十三年度も山村開発センター建築の継続、小学校プールの建設、道路の新設改良を進みます。皆様の協力をよろしくお願いします。

また、皆様の構造改良を遅滞なく押しすすめています。さらに、五十三年度も山村開発センター建築の継続、小学校プールの建設、道路の新設改良を進みます。以下、各款項別に主な事業をひろいあげてみました。

歳出の決算は、十三億三千三百六十四万六千円の予算に対して、十三億八十八万四千円が支出され、九十七。六年の執行率で会計が閉じられています。以下、各款項別に主な事業をひろいあげてみました。

町民の皆さんのご協力により、民グランド、小学校プール、ほ場整備、各種道路改良など、五十一年度に計画された事業は順調に完成させることができました。

歳出

住民サービスを基調に

議会・総務

本荘由利の各市町村が協力して組織している“広域圏組合”では、ゴミ・し尿処理や老人ホームの経営などを行っており、町ではこれらの広域事業と町独自の事業のバランスの中で、住民サービス本位の行政をすすめています。



- 広域市町村圏組合負担……537万9千円
- ▷一般事務局費負担……119万6千円
- ▷老人ホーム（養護・特別養護・軽費）負担……61万円
- ▷隔離病舎・救らい事業負担12万9千円
- ▷ゴミ・し尿処理事業負担 344万4千円
- 町報発行……306万4千円
- 財政調整基金積立……3,949万1千円
- へき地集落移転事業補助……200万円
- 参議院議員補欠選挙費……145万2千円
- 町議会議員選挙費……73万3千円
- 衆議院議員選挙費……156万6千円

みんなの健康と幸せのために

民生・衛生・労働

老人・乳幼児の医療費無料化や認可保育所の設置など、福祉制度と施設の充実を図ってきました。



保健衛生面では、住民の健康を守るために各種検診・予防事業などを行いました。

- 町社会福祉協議会補助……434万6千円
- 老人家庭奉仕事業……205万2千円
- 老人健康診査……14万4千円
- 福祉医療……2,774万3千円
- 老人いこいの家管理費……314万5千円
- 保育所事業補助……3,375万1千円
- 児童手当交付金……931万4千円
- 循環器検診……81万4千円
- 母子栄養食品支給……146万1千円
- レントゲン検診……79万9千円
- 胃・子宮ガン検診……198万5千円
- 塵芥処理事業……344万4千円
- 出稼ぎ対策援護……433万6千円

豊かなくらしをめざして

農林水産業・商工

わが国の農業は、今後“適地適産”を強力に押しすすめていかなければなりません。そうした時代要請に応えるべく、町では主産業である農産物の安定生産を目標に、その第一歩としてほ場整備や農地造成をすすめています。



- 葉たばこ乾燥施設及び共同利用機械購入補助……215万9千円
- 県単小規模土地改良事業補助 3,043万1千円
- 団体営土地改良事業……7,437万円
- 粗飼料増産対策……836万9千円
- 二次農構計画策定……495万1千円
- 山村開発センター建築…3,658万8千円
- 町森林組合負担……83万5千円
- 特用林産物生産振興……1,422万4千円
- 造林費……1,570万1千円
- 集落農場化整備……1,640万4千円
- 林道維持……917万円
- 町商工会補助……120万円

教養と文化を高めるために

教育



学校教育は、子どもたちの将来への投資であります。51年度は東由利中学校と住吉小学校を会場に“全国へき地教育研究大会”が開かれ、大きな成果をあげました。また、待望の小学校プールが住吉小学校に建設されました。

一方、社会教育では全町球技大会や町民運動会を盛会に開催したほか、分館活動の活発化や各種学級開設の事業なども好評を得ました。

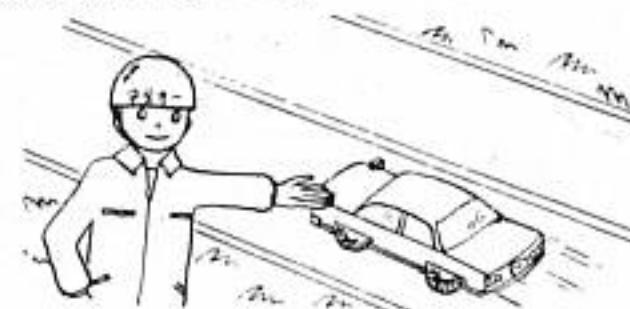
- 小・中教科、教材購入……697万9千円
- 小・中学校管理費……5,669万円
- 学校プール整備……2,522万4千円
- 町民運動場整備……4,342万9千円
- 遠距離通学費補助……166万円

快適なくらしと安全に

土木・消防

町民からの要望の筆頭は、やはり道路の整備です。町では重要施策として主要道路の改良・舗装を目指し、住民のくらしがより快適になるようにと努めています。

また、住民の生命と財産を守るために消防施設の充実を図るとともに、防災意識の向上にも力を注ぎました。



- 杉森林道開設……2,044万4千円
- 藏上里線改良……2,109万3千円
- 大谷地線改良……1,737万6千円
- 新沢線改良……1,367万4千円
- 島宮線改良……978万5千円
- 下吹線改良舗装……1,896万6千円
- 藏上里線舗装……1,662万8千円
- 台山線舗装……1,178万4千円
- 藏新田線舗装……328万6千円
- 下田面線舗装……319万7千円
- 宿小道路舗装……229万1千円
- 臼ヶ沢橋架替……440万3千円
- 局所防災……349万3千円
- 防火水槽整備……338万9千円
- 小型ポンプ付積載車購入……207万円

玉米財産区会計

歳出	歳入	予算
四百七十二万一千円	五百三十九万七千円	百八十三万八千円
百万三千円	差引残額	十一万円

同財産区の財産を良好に維持・管理するための事業会計であり、その面積は広葉樹林二七三・八五㌶、針葉樹林十

黒瀬診療所会計

歳出	歳入	予算
五百三十九万七千円	五百三十九万七千円	百八十三万八千円
一百一十一万円	一百一十一万円	十一万円

黒瀬地区住民の健康の保持・増進のために経営されている同診療所の、医業費、施設管理費などが主なもので、町の開業医が交替で毎週木曜日の午後、診療にあたっています。



トロフィー、賞状を手に喜びの同好会面々

崎さんは日頃の実力を十分に發揮できず、惜しくも第三位にとどまつたものの、佐藤さんと小野さんはそれぞれ部門優勝を果たし、「民謡の東由利」の実力を示しました。

民謡はその底流に郷土への愛着、生への生命力があり、「母なる唄」として近年特に愛好する人が増えてきており、教育行政の中でも見直され大きくクローズアップされてきているところです。

今回の優勝について伊東会長は「……市郡内の民謡サークルの中には、宴会などで興ずる程度のものが多くあるが、我々の同好会は毎月三回集まって互いに評価しあい、少しでも完成された唄を……と目ざしている。

また、これとは別に去る六月二十八日に行われた「NHK全国素人など自慢大会秋田大会」(七月十七日テレビ放映)に、同好会の小野米松さん(館合新田)が出場し、みごとチャンピオンの栄冠を得、その実力を全国に示しました。

九月十六日に「あかつき号」来町
九月十六日に移動献血車「あかつき号」が来町します。本町

八月一日発行二六一号の
十六「慶弔」欄で、「古関光春
新町 幸助 長男」のあやまりでした。おわびして訂正致します。

◇ 町民謡同好会 ◇
市郡唄合戦で
堂々の総合優勝

本荘市観光協会(佐藤憲一会長)主催の「第一回本荘市由利郡民謡同好連合会唄合戦」が、

七月三十日本荘公園下野外ステージで行われ、市郡各民謡サークルの代表二十一人が自慢のノ

町民のひろば



町の概要

人口総数	6,533人
うち男	3,206人
うち女	3,327人
世帯数	1,484戸
面積	148.51km ² (52・8・1現在)

ドを競いました。

先鋒、中堅、大将の三部に分かれ、发声や節回し、調和、態度などに厳しい審査が行われた結果、本町民謡同好会(伊東国男会長)が圧倒的な強さで総合優勝を獲得しました。

町民謡同好会からは、先鋒の部に佐藤満さん(石高)、中堅の部に柿崎イセ子さん(下通)、大将の部に小野米松さん(館合新田)が登場し、中堅の部の柿崎さんは日頃の実力を十分に發揮できず、惜しくも第三位にとどまつたものの、佐藤さんと小野さんはそれぞれ部門優勝を果たし、「民謡の東由利」の実力を示しました。

現在三千名近い会員がいるが、若い人が比較的少ないので、若い人たちの参加を特に呼びかけたい……と語っており、この榮誉が個人の努力もさることながら、同好会全体のレベルの向上の中から生まれたものであることを強調しています。

高橋さん 献血五十回
大琴グループも同時に

先ごろ行われた日本赤十字社百周年記念全国大会において、献血事業に特に功績のあった個人と団体が表彰されました。

本荘市由利郡関係では、二個で献血五十回以上の功労者として高橋政一さん(下小路)、十年以上連續の献血推進功労団体として大琴献血グループが、それぞれ表彰を受けました。

における献血は、町民の皆さんとの深いご理解により毎年目標を上回る実績をあげてきましたが、今年はその実績に比べてかなり低くなっていますので、多くの方々のご協力をお願いします。

進む青春



嶽石愛子さん

(八日町)
二人姉弟のお姉さん
昭和31年8月11日生
(農協本所勤務)

- ◇ 8月15日は町の成人式、ハタチになった感想は……。
 - ◎ 20歳になりましたが、実感としてはピンとこないです……。
 - ◇ 今一番やってみたいことは何ですか。
 - ◎ どこか誰も知らないところへ行って、その土地のおじいさんやおばあさんから昔の話を聞いてみたい……そう言う旅行をしてみたい。
 - ◇ 日常生活の中で“モットー”としているようなことは……。
 - ◎ モットーと言うほど気負ったものではありませんが、“人にあまえられる人間、人からあまえられる人間”になりたいと思っています。
 - ◇ 現在の東由利青年の姿(生活)をどうとらえていますか。
 - ◎ 温厚で、知らない人でも気軽に話ができるようですがすがしさがありますね……それだけ個性の強い人が少ないと言ふことでしょうけれども。
 - * 結婚は……と聞いたら、「24歳ころまでに一農家がいい」と言う、明るく、しっかりした感じの娘さんでした。
- (インタビュアー 小松)